

## 新発田の商店・企業を訪問して見えてきたもの

補助金を受けて、施設（箱物）をつくるという事に異議はありません。政治の力の根源は財の分配です。地元に企業の少ない地方が補助金を受けて、建築会社を経由して雇用を確保する事は「現在の地方自治体のビジネスモデル」です。これはすぐには変えられません。

問題になるのは、施設（箱物）の中身です。果たして、本当に目的とする効果が上がるか、適切な立案がなされているのかという事です。同時に大事な事は市民が自律的に行政に参加しているのかという事です。

私自身のスタンスは市民がもっと政治に参加して行くべきだと考えています。行政が適切な物かどうかは市民が判断するべき物と考えています。「100年しばた」でも代案を提案していますが、あくまでも案でしか有りません。その案を採用する事が目的の運動では有りません。私自身は「図書館の移転」「駅橋上化への対応」「市民の意見は形式的にしか反映されていない」などを理由に反対ですが、「選挙」を通じて意思表示をするべきだと考えています。

### 「百年しばた」という運動は、この計画への反対運動ではありません。

「建築に反対する市民（私の様な人間）」もいるし「賛成する市民（建築を受注する建設会社の社員、市長など）」もいます。

『相対する意見を持った市民が100年の時を考えて市政を選択することができるようになる事』が最終的な目標です。

「不便、不要の複合施設（私見です）」が行政の手順（市長が起案して議会が承認する）に従って建ったても、それは仕方が無いと考えています。

「不便、不要の複合施設（私見です）」は私たち市民の愚かさ（市政に関心が無かった事）のモニュメントになるのだと「百年しばた」は考えます。

私たちが、「自律した市民」となって、自分たちの生まれたこの土地が30年後に「デトロイト」や「夕張」の様にならないための活動です。私は子どもの為に決意しました。

子供たちが100年の時を経て私たちと同じように先祖を思い、未来を夢見れる土地であり続けられるよう夢見ています。

百年しばた みんな声を聞こうプロジェクト

2013/8/30

## 【初めに】

私は新発田で「平野屋コンピューティング」というソフト会社を経営しています。2000年に、豊栄～村上の企業150社に飛び込み営業を行いました。2011年に新潟市内300社に飛び込み営業を行いました。それによって地元の企業がどのように考えて何のニーズがあるかをお聞きして回りました。実際に幾つかの企業様からの受注を頂きました。

今回の長い訪問の旅（これからも続きます）の最初のきっかけは、駅前商店街の人たちが『新発田市中心市街地活性化基本計画（以下“この計画”と呼びます）』で売り上げが上がる」と思っているのかという疑問でした。

『にぎわい創出』を地元の商店では果たして本当に起こると信じているのかという事を確認したいと思ったからです。

『陳情があったからこの計画は進められている。市民は皆望んでいる。』と議会や商工会議所、行政は言います。しかし、僕には適切に市民の意見が反映されているとは信じられませんでした。

2013年8月7日～25日に新発田市内の商店、企業を230社以上訪問して聞き取りを行いました。大手の企業様（アポが必要な規模の会社）や訪問時に経営者が不在だった企業・商店様とはお話をお聞き出来ませんでした。

今後もこの活動は繰り返し続けますので、次の機会にお話をお聞き出来ると思います。

## 【A. 駅前、中心市街地商店街訪問】

駅前、中央市街地商店街を訪問して実感したのは「行政の考えている小規模商店のイメージ」と「商店の実態」の乖離です。この溝は深刻です。

行政の基本的な考え方は、『小規模商店』が『大型店舗や、大手スーパー』と戦うという物です。

郊外においては、大型店舗が.....これ（大型店舗）と相対して戦わなければならぬ」と言う地元の商店街の状況（二階堂市長 2013/6/3 全員協議会 P11）

今、元気な小規模商店は**固定したお客さんを持ち大規模商店と住み分けています**。無論全てでは有りません。かなりの割合で今後数年間に廃業するであろうお店も有ります。

道を歩いている人が商店をのぞいて買い物をするというのは30年前に終わった考え方です。現在の消費行動は、チラシやネットで価格の安い所を調べて、そこに行って買い物をして、まっすぐ帰ります。

十二齋市が実際に機能していた時代は、市（いち）がチラシの意味をもち市に行った人たちは、そこで最新の情報や商品を得ました。

今の時代の消費者は「道を歩いてお店の物を見て購入する」と言う行動をとらない事は皆さん自身のことを考えればお分かりになるかと思えます。

では、どのような考え方、方法論でこの難局に臨めばいいのでしょうか？

「100年しばた」では一つの試案を検討しています。

その論拠と方法は別途レポートいたします

- 1) 駅前に複合施設をつくる事、市役所が中心部に移転する事「有料の駐車場になる事」をお話ししました。また、複合施設、新市役所の利用者が近くの商店街を歩いて買い物をするかどうかという事を聞きました。

目的を持って施設や市役所に来た人間が、わざわざ駐車場料金を払ってまで、ぶらぶら歩いて商店に来るはずがないという意見で完全に一致しました。

また、県立病院の移転においても同じ事（商店のお客さんが増える）を言われたが、病院に来た人が、わざわざ駐車場料金を払ってまで商店を訪ねない事も指摘を受けました（「にぎわい創出」の効果がない前例があります）。

- 2) 人が商店の前を歩いたら売り上げが上がるかという話をお聞きしました。

売り上げが上がるという返事をいただいたお店は皆無です。

- 3) 開発の計画に関しての意見を聞きました。

数件のお店は「とにかく何でも良いからやってくれ」という事をおっしゃっています。

- 3-1) 賛成という方にそれらのお店に対して建てた後で経費がかかるが、それは補助金では出ないと言う事を話しました。

また、「毎月の運用費、経年度変化の補修費、取り壊しの経費」これらの経費は私たちの売り上げから出るとお話ししました。その結果、確かにじっくりと考えなければならぬとご理解頂きました。議会で、それらの長期的なスパンでの検討がなされていない事に関しては、「おかしい」という意見の方々がほとんどです。

- 4) 総合施設に入る物が果たして適切かという事をお聞きしました。

どんな施設が入るかに関しては、ほとんどの方々は笑って、「知らない」と言う事でした。そんな物はどうでも良い（興味がない）とお答えも多くありました。

- 5) 駅前の一等地に商業施設を誘致するのではなく、大手の建設会社の土地を買って公共施設を作る建てる事をお聞きしました。

おかしいと言う風にお考えの商店が多くあります。また、それが新発田なんだよ、新潟は土建大国だよと諦めた様な返事が返って来ました。

かつて、県外の企業が進出する計画があった事などを考えると取り壊しに費用のかかる施設は未来に対しての可能性を潰す事になります。

- 6) 大手の建設会社が駅前にマンションを造って敬和大学の学生を入居させる事に関しての意見をいただきました。（中心街の居住率を上げる為）

敬和大学の学生数が急に多くなるという見込みでもあるのか？なかったら他のアパートなどを持っている大家さんは大変だねえと言われました。

また駅前のマンションの入居者が商店街で買い物をするかと聞いた所「あり得ない」という意見しかきかれませんでした。

- 6) 町内会の会議に付いてお聞きしました。適切に商店の意見を集約した物にはなっていないと思われず。

町内会の会長は皆賛成していると言っています。町内会の会議で意見がいえなか

という事をお聞きしました。会議が有ったが、反対出来る雰囲気では無かった。単に町内会長の決めた事を商店に通達するだけの物だった。何人かは反対したが、反対しても無駄だと思った。忙しくて出れなかった。という言葉が聞かれました。まさに、「日本的な会議（決定事項を通知する）」だったという事が分ります。

#### 7) 駅の橋上化に関しての意見をお聞きしました。

橋上化に関しては駅東だけでなく駅を利用する人々のニーズは高いです。板山踏切を通る人たちが豊町側を歩ける様になって安全性が高まるなどの効果があります。また必ず駅の利用者が通るポイントになるので有効な利用法が考えられます。別途ご提案さし上げます。

東側にバスの発着出来るロータリーが有ったら月岡と市街地の観光資源が結びつきます。また、新発田の一日駐車場パスなどを温泉利用者に交付する事で市内への誘導が考えられます。

橋上化は先の選挙で否定されました。

では、未来永劫新発田駅は橋上化出来ないのか、50年後なら出来るのかと問いかけました。今やれないと思いついてるのは政治家のプライドが問題であると皆ご理解頂けました。

地下道をバリアフリーにするはずなのに全くなっていないスケジュールも出されていままにこのような計画を進めるのはおかしい。議会はどうか考えているのかという意見を聞きました。

### 【B. その他のエリア訪問（全体に共通）】

新発田は先の市町村合併で大きくなりました。

実感したのは、各地域と元々の新発田エリアでの齟齬です。

自分の生まれた土地が違った行政のエリアに組み入れられる事の違和感を皆さん感じています。どのようにして、一体となる事が可能なのか「100年しばた」では考えて参ります。

#### 1) 新発田の駅前の意見をお聞きしました。

なぜ、中心街だけにそんなに金をかけるのだ。

新発田の中心街になにができて関係ない。

図書館なんてどうでもいい。

そう言った声が聞かれます。

他地域の市民が、中央商店街に対してかなりの「敵意」を持っている様に見受けられました。非常に悲しい思いをしました。同じ市民が、敵対する様なイメージをお考え下さい。これの問題に関しては別途レポートいたします。

#### 1-1) 施設を建てるのは補助金で良いかもしれないが、その後の経費は市全体の問題になる、市議員も建った後の事を議論もせず、ほとんど反対していないという事をお話しました。

みなさん、絶対におかしいと言っています。

市議員になる人は決まっているから、しょうがないんだという声も聞かれます。

市長と議会を選挙で選び任せっきりにする事の問題はご理解頂けました。

また、「100年しばた」の活動に対してはほとんどの皆さんに賛同頂きました。自分も声を上げないといけないけど出来ない事が残念だと言っていらっしゃいます。

す。みなさんに「頑張ってください」と言って頂けます。涙が出そうになります。

私は、「決して無理しないで、僕が届ける言葉を少しだけ頭のどこかにおいて下さい」とお話しします。

きっとそんな意識を皆が持てば新発田は変わると確信しています。  
なにせ、100年の時間があるのですから。

### 【C. その他のエリア訪問（月岡エリア）】

月岡エリアを訪問して、中央商店街と同根の問題がある事を見つけました。新発田市街地と月岡は一体になっていないとも感じました。岡の上にある大きな旅館では豊栄駅とのシャトルバスが運行されています。新発田駅には適切な駐車場がないからそうなっています。もし駅の橋上化と東側に適切なロータリーが有ったならば新発田市街地と月岡は固く結ばれると実感しました。

月岡の観光誘致は大変努力しています。しかしながら昔からの旅館はどんどん潰れて行っています。岡の上の大きな旅館と昔からの旅館が戦っている様に見受けられました。

「100年しばた」は、戦うのではなく、住み分けるべきだと考えています。その論拠と方法は別途レポートいたします。

### 【D. その他のエリア訪問（各工業団地）】

工業団地を回りました。10年以上前に訪問した時に比べて地元本社の企業は減っているように感じました。空き家になっている工場も多くあります。

本社が別な所にある会社は、雇用の調整を目的にします。企業の育成に関して私自身の体験から学んだ物が多くあります。

そして、なぜ小規模企業を大事にしなければならないのか「100年しばた」では考えて行きます。

### 【むすび】

補助金は企業の少ない地方にとってある意味売り上げのような物です。国債が発行できる間（国内で消費される間）は続けられるでしょう。しかしながら、多国籍企業から日本の財は狙われています。TPPはその良い例です。既にこの流れには逆らうことはできません。30年後にその原資としての財（高度成長時代に海外から得て、現在「年寄りの貯金」になっているお金）が無くなった時にどうなるのでしょうか？

この様な現状に対して、私たちはどのように向い合っていくべきでしょうか。答えが出るかどうかは分かりません。「100年しばた」では問いかけ続けて行きます。

今まだ旅の途中ですが、多くの仲間と出会えました。

とても素晴らしい事だと思っています。

私は今、駅前に総合施設が建ち、市役所が移転してもかまわないと考えています。

こんなに素晴らしい人たちが新発田にはいるのだという事が分ったからです。

一人でも多くの方が「100年しばた」に共感してくれる事を夢見てこの旅を続けます。